

2021(令和3)年度 初任者 SD 研修(第3回)「自分の大学を知ろう！」 開催報告

日 時： 2021(令和3)年 11月 17日(水) 14:00～17:00
会 場： オンライン(Zoom)
企 画 統 括： 浅田 晋太郎氏(研修部会推進委員会 委員長、大阪女学院大学 常務理事・事務局長)
企画コーディネーター： 清水 栄子氏(研修部会推進委員会 委員、追手門学院大学 基盤教育機構/教育開発センター 准教授)
司 会 進 行： 宮原 秀明氏(研修部会推進委員会 副委員長、大阪学院大学 大学事務長代理)
講 師： 佐藤 浩輔氏(研修部会推進委員会 委員、大阪体育大学 庶務部研究支援担当)
申 込 者 数： 7大学 14名(うち会員外 1大学 1名)
参 加 者 数： 7大学 14名(うち会員外 1大学 1名)
内 容 詳 細： 大学コンソーシアム大阪 HP 掲載の「シラバス」参照
実 施 結 果： 同上掲載の「PDF/参加者アンケート」参照
企 画・運 営： 大学コンソーシアム大阪 研修部会推進委員会

今年度の大学コンソーシアム大阪(以下、コンソ大阪という)の「初任者 SD 研修」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、オンライン(Zoom)で実施した。

冒頭に司会の宮原氏より、推進委員長 浅田氏の紹介、また浅田氏より開会挨拶と本研修の趣旨説明があった。



浅田委員長

浅田委員長から「本日の研修で、設置形態、学部・学科等が違う他大学の職員がどう感じているかを共有することは今後の力にもなるだろう。横のつながりは得難く大切なものであり、この研修はその第一歩となると思う。今日は良い時間を過ごされるよう祈っている。」との言葉があった。

続いて、講師の挨拶、自己紹介があった。



佐藤講師

■ 本研修の到達目標	
到達目標①	所属する大学の概要を説明することができる
到達目標②	所属する大学の強み、弱みを説明することができる
到達目標③	自身が“将来どういった大学にしていきたいか”を説明することができる
到達目標④	グループワークを通じて参加者と意見交換を図ることができる

到達目標

冒頭に研修のねらい、目的、到達目標を共有した。

その後、大学職員の求められている役割として、大学の運営の高度化を図る上での専門的職員、教職員の資質向上のためのSD研修の義務化や教職協働の重要性等を学んだ。

グループワークでは、事前課題でまとめた自大学の概要やミッションを自己紹介とともに発表し、共有を行った。

個人ワークでは、事前に考えてきた「所属する大学の強み・弱み」についてのSWOT分析を行った。また、実現したい未来としてのビジョンを持つことの価値を学び、自大学をどのような大学にしていきたいかを言語化するために、ビジョンフォームを作成し、その後グループ内で共有した。

また、管理職の視点からとして、宮原副委員長より「自分がやりたいことと大学のビジョンのベクトルを合わせることは重要である。自分のしたいこと等の意見を持つのは良いことだが、管理職は最前線の現場の状況を何分の一程度しか把握していないこともあるため、現場で理解されていることや事実をまず管理職と共有したうえで、自身の意見を伝え、コミュニケーションを図ることで管理職にも意見や問題点等について理解してもらいやすくなる。また、研修で学んだことを自身の業務の中で実践していくことが非常に重要である。」との言葉があった。



■ 本研修のねらい

大学の教育研究の高度化・複雑化に伴い、大学の事務職員等の業務に変化が生じている。大学職員がこれまで以上に積極的な役割を担い、大学運営の一翼を担う機能をより一層発揮できるよう求められるようになり、大学改革を推進し、課題解決策を提案・実行できる人材になる必要がある。

そのため、本研修では、所属する大学の将来の在り方や、これから大学職員として仕事していくにあたり、夢と希望、情熱を持って、これまで以上に前向きに日々の業務に取り組めるためのきっかけの一助になることを目的としている。

清水委員より、「所属する大学の概要を考える良い機会となったと思う。講師のねらいは、SWOT分析を通じて、大学をこれまでとは違う視点から見て、さらに知るというところにあったと思う。今回はこれらを用いて他大学の職員と共有したが、自大学の職員ともSWOT分析やビジョン共有といった大学を知るワークをして共感者を探してほしい。また、その成果を事後アンケートで聞くことができればうれしく思う。」との言葉があった。



清水委員

最後に、受講者アンケートを実施し、研修を終了した。

後日、受講者には「受講証明書」が配付された。

以上